

原因

体質、アレルギー、細菌感染、鼻腔や副鼻腔の解剖学的構造など、いろいろな因子の関与のしかたによって病型も異なります。膿性鼻汁の排泄が多いもの、粘膜の浮腫傾向が強く鼻たけ(ポリープ)をつくるものがあります。また単一の洞だけに炎症が限局することはまれで、両側性および多洞にわたって起こります。(多洞炎・汎副鼻腔炎)

一般にいわれている蓄膿症は副鼻洞内に膿がたまっていることを意味します。

症状

鼻閉・鼻漏・嗅覚障害が主症状です。頭痛や頭重感も訴えの多い症状です。鼻声・いびきは？

X線検査・洞の穿刺洗浄・内視鏡検査などで確定診断をします。

治療と看護

抗生物質や粘液溶解剤・酵素剤の内服をします。局所的には鼻腔粘膜の腫脹を取り去り、分泌物の排泄を促し、副鼻腔の通気性をはかるための点鼻薬を行います。

マクロライド系抗生物質(クラリシッド)の少量長期投与も有効です。

合併症

小児の副鼻腔炎では反復性気管支炎・注意力散漫・食欲不振などの副症状にも気をつけるようにします。また、鼻を上手にかむことができるようにしておきましょう。